

佐藤茂樹先生と「古神戸湖」

宮津 時夫

昭和44年8月、それまで集めていた神戸の植物化石に名前をつけてもらおうと、友人と神戸大丸の標本鑑定会へ行った。そこで、佐藤先生に出会った。先生はかなりお年を召されていたが、その話は大変おもしろく、興味深かった。そして、ルーペを持って、次々と植物化石に名前をつけていった。その石を調べる様子は今にも目に浮かんできそうで、今までわからなかった化石が、トクサ、キツタ、ケルカスジャポノアルバ（後々、ケルカスコバタケイと命名される）などであることがわかった。それだけでなく神戸が1500万年前に湖であったことを教えていただいた（現在は3500万年前という説が有力である）。12月に、先生の自宅を訪ねた時分厚いノートに植物化石や古神戸湖のことをまとめておられた。そのなかに、美しい「古神戸湖」の絵が描かれていた。

先生が古神戸湖のことを、神戸層群のことをまとめていたら、はたしてどんな本ができあがっていたのだろうか。そのようなことを考えながら、資料収集を続けていた。そうしているうちに、単に収集するだけでなく先生の研究成果を整理し、役立つようにしようと思いついた。残っている資料から、「古神戸湖」を作ろうという試みである。

神戸層群の資料収集をしていくと、化石のことだけでなく、植物、動物の話もでてくる。特に丸山衝上断層についての記事も多い。このなかから、テーマを「古神戸湖」と「丸山衝上断層」の二つにしぼった。裏とびらには、先生の書かれた「地質構成概念図」を用いた。しかし、表紙となる絵がなく、完成が遅れてきた。古明石湖を描いたものは、『明石の自然』『垂水の自然』といった本に掲載されたが、神戸層群とは内容が異なってしまう。ところが、いろいろな本をさがしているうちに、「兵庫の自然」(1960)の17ページに掲載されていることがわかった。以前に見せていただいた絵のこともすっかり忘れていたが、ついにその絵を発見することができた。

このようにして、3冊の本が完成した。実際に多数印刷されたものでないので、残念であるが、この目次を参考に、さらに多くの人に読んでいただきたい。化石についての興味が広がると同時に、佐藤先生のことわかっていただけることと思う。例えば、白川の植物化石『六甲の自然』に「化石の出る層が9段もあるから、1階を平均15から20メートルとした十階建のビルディングに相当し、各種の植物化石を陳列したデパートに例えることが

できる」という文章がある。横浜国立大学の故鹿間教授が発表した9帯の植物化石層を説明したものである。また、郷土の地質鉱物（兵庫の自然）には「母にあたる第二瀬戸内海は、およそ五百万年前も前の鮮新世に現われたもので、祖母に当たる初代第一瀬戸内海は約二千五百万年前第三紀中新世の誕生で……」という文章がある。いずれも、例えがとても上手で、わかりやすい。私も先生のような文章が書ければと思う。このほかにも、先生は絵やスライドを手掛けておられたようで、これらが発見できれば、「古神戸湖」がもっとはっきりするに違いない。そして、「古神戸湖」がいつの日にか発行されることを願う。また、先生とは鑑定会での短かい出会いであったが、もっともっとそのお話を聞きたかったものである。さいごに、先生に感謝するとともに、教えていただいたことは、いつまでも忘れず、今後の研究に役立てていきたいと思う。

◇ 付一神戸層群の研究者

佐藤先生以外にも神戸層群を研究された方は多い。兵庫生物とその前身の兵庫県博物学会誌からこれまでの研究内容を列記してみると

二杉 賀久三郎, 1933: 神戸化石植物群と其地質時代.

兵庫県博物学会誌, (5)

森本義夫・津田 貞三郎, 1934: 神戸・明石附近の地質概要. 兵庫県博物学会誌, (8)

———, 1935: 同続報. 兵庫県博物学会誌, (10)

安藤保二, 1956: 多井畑貝化石層の再出現(予報). 兵庫生物, 3 (3)

大賀吉啓, 1965: 神戸白川層の植物化石, 及び生態を保存する化石. 兵庫生物, 5 (1)

上田 稔, 1970: シュロ科(Palmae)の化石サバリテスSabalitesの発見. 兵庫生物, 6 (2)

横山 章, 1975: 神戸層群産のlobed-white-oakについて. 兵庫生物, 7 (1)

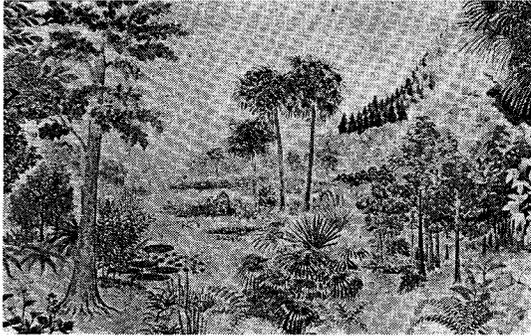
———, 1982: 神戸層群産Macclintockia属とPo-tamogetonについて. 兵庫生物, 8 (3)

米阪 紀雄, 1995: 古第三紀漸新世神戸層群産"Deb-regeasia化石種". 兵庫生物, 11 (1)

米阪 紀雄・山本順一, 1996: 初期漸新世神戸層群産ハコヤナギ属について. 兵庫生物, 11 (2)

と重要な文献が多く、その研究は、兵庫生物のテーマとして引き継がれてきたことに気づく。佐藤先生もそのひとりとして長年活躍されてきた。しかし、文献が多岐にわたるため、ここにまとめた次第である。

古神戸湖



1500万年前の神戸の姿(化石による復元図)

佐藤 茂樹

佐藤茂樹原図(兵庫の自然, 1960)を一部加筆

目次

I. 古神戸湖

- 表紙, とびら: 1500万年前の神戸の森
(化石による復元図; 1960, 兵庫の自然)
- (1)白川産植物化石(1956, 兵庫生物誌)
 - (2)白川の植物化石(1959, 六甲の自然)
 - (3)古神戸湖植物化石(1960, 兵庫の自然)
 - (4)郷土の地質鉱物(1960, 兵庫の自然)
 - (5)神戸層群の植物化石(1966, 兵庫の自然)
 - (6)白川産植物化石予備調査資料(その1)
(1962, 兵庫生物, 4(3・4))
 - (7)白川産植物化石予備調査資料(その2)
(1965, 兵庫生物, 5(1))
 - (8)タキガワゾウの由来(1960, 兵庫生物 4(1))
 - (9)きょうから大化石展・にぎわう大化石展
(神戸新聞明石版, 1961.10.1, 10.13)

II. 丸山衝上断層

- (1)層(山陽ニュース, 1964.9)
- (2)世界に誇る地質・鉱物
(1956, 兵庫生物誌)
- (3)天然記念物 丸山衝上断層(1959, 六甲の自然)
- (4)日一日と高くなる六甲山(1959, 六甲の自然)
- (5)世界に誇る衝上断層(1960, 兵庫の自然)
- (6)郷土の地質鉱物(1966, 兵庫の自然)
- (7)発育ざかりの六甲山(1966, 兵庫の自然)

- 8)神戸丸山衝上断層(1966, 兵庫の自然)
- 9)西六甲神戸丸山衝上断層
(1953, 兵庫生物, 2(3))

III. 著作等

- (1)佐藤 茂樹先生著作一覧(略)
- (2)略歴(1958, 動物観察事典)
- (3)佐藤先生をしのぶ: 田中 兼治
(1973, 兵庫生物, 6(4))

裏とびら: 兵庫県地質構成概念図

(1966, 兵庫の自然)

※1960, 兵庫の自然(のじぎく文庫版)

1966, 兵庫の自然(六月社版)

◇本書の特色

本書は、当兵庫県生物学会の会員、故佐藤茂樹氏が書かれたものを再編集したものである。先生は滝川高校の教諭をつとめる傍ら、長年にわたって、神戸層群の研究を続けてこられた。その成果をこのたび1冊の本にまとめた。

第一部は「神戸の植物化石」を例に、化石の重要性を表現豊かに述べておられる。また、化石採集の楽しさや興味を感じとれる内容となっている。そのほか、表紙ととびらに用いた「1500万年前の神戸の森」の原図は、神戸層群の古環境をはじめ描いたものとして、高く評価できる。

第二部は天然記念物「丸山衝上断層」と六甲山の成因をわかりやすく説明している。特に、地質学では、むずかしい説明、語句が多いなかで、断層についての記述は一般の人にもわかりやすい。古い記述であるにもかかわらず、内容は陳腐化していない。また、丸山衝上断層の保存にいたる経過も述べられており、史的にも興味深い。

◇編集後記

先生が亡くなられてから23年の歳月が過ぎた。忘れかけていた資料も、このような形でまとめることになった。私の知り得た資料では、まだ足りない文献も多いことと思う。しかし、その思いは、この本が化石の入門書として、自然への手引き書として活用されることであり、不十分な点はお許し願いたい。